

# 長野県革新懇ニュース

2020年1月号  
発行日1月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 00510-3-15971

248

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 北沢俊美さんインタビュー
- 2面 1面続き、
- 3面 新年メッセージ、読者の声、近現代信州の歴史回廊
- 4面 「抱きしめよう」窪島誠一郎さんエッセイ  
映画評論「たちあがる女」内山到さん、漢字パズル
- 5面 「韓国へ行って目を開かされたこと」島田佳幸さん
- 6面 「浅川ダム再検証(続)」高村裕さん、5面続き

長野県革新懇

検索



1938年、長野市生まれ。1975年、長野県議会議員に初当選、以後5期17年にわたり長野県議。1992年、参議院選挙で初当選、以後、参議院議員(4期)、民主党副代表・倫理委員長、参議院国土交通委員長、参議院外交防衛委員長、参議院懲罰委員長、参議院国家基本政策委員長、防衛大臣(第7・8代)などを歴任。2016年参議院で引退。

## 野党共闘成立の原動力は

## 市民の切実な願い

きたざわ としみ さん  
北沢 俊美 さん

(「新政信州」代表、元防衛大臣)

### 共闘前進の一つの ベースは共産党の綱領

Q 野党共闘の動きについてはどうお考えですか？

日本の政治史の中で、野党共闘というのはこの間の一連の選挙がはじめてで、本当に画期的なことだと思います。一つのベースは、共産党が2004年に綱領の改定をして、「当面の差し迫った任務に基づく共同と団結が必要」と謳ったことにあると思います。私なりに解釈すると、これはカント哲学の援用だと考えています。要するに政党が掲げる理念を「統制的理念」と「構成的理念」の二つに位置づける」とすると、統制的理念というのは、非武装中立のような究極の平和を求める理念ですが、この理念はあくまでも大

切にしつつも、野党が団結していく上で協調しなければいけない部分があるので、それには構成的理念で対応するという考え方だと思います。つまり、9条の精神を本当に活かそうとすれば、自衛隊は否定的に扱わなければいけないわけですが、今の日本社会で自衛隊を違憲だから廃止するということは現実的には無理がある。だから、最終的な統制的理念を保持しながらも軍縮という手段で徐々に理想に近づけていくという柔軟な対応をとるようにしたということだと思います。

そうした路線がベースになって、原発事故の直後から始まった毎週金曜日の官邸前行動が、2015年の安保法制のときには市民や学生の皆さんが国会を取り巻く大規模な抗議行動へと発展していったわけです。私も当時、野党の筆頭理事でしたから、時々顔を出していたんですが、いろいろな要求を掲げながら、最後に合い言葉で「野党は共闘」とやったんです。この「野党は共闘」というのが非常によく利いて、国会では

我々から共産党、社民党も含めて統一して行動ができませんでした。これが一つの大きな源流だと思えます。その後、共産党が連合政権を提唱するわけです。それと合わせて同年の12月に「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が結成されて、翌16年の1月に市民連合主催で初めての野党合同の街頭宣伝を各党首が出てやるわけです。これに合わせて長野でも行動が始まって、私も生まれて初めて共産党の唐沢千晶さんや社民党の中川博司さんと一緒に街頭行動をしたりしました。

Q 統一候補の勝因についてはどのようにお考えですか？

我々としては、共産党や社民党と話をして統一候補を作るには、分裂した旧民進党が一本にならないと信頼感が醸成できないということ、「新政信州」という政治団体を立ち上げました。私が代表になってまともな政治団体になることで、それぞれ違う党に所属しながら、一体感をもって他の野党と話ができるように仕組みをつくったわけです。参議院の結果は15万票の大差で羽田雄一郎さんが圧勝しました。考えられなかったです。私も途中から5万票位で勝つだろうと思っていましたが、よもや、その3倍になるとは思わなかったですね。いくつかの勝因が考えられますが、一つはやはり、候補者の政策や人柄を含め野党のしっかりとした共闘ができたということだと思います。これは間違いありません。

### 共闘候補の勝利は 長野の県民性も一因

いろいろな総括をして、戦略的な間違いを国民民主党が認めて、羽田雄一郎さんもその後始末を積極的にやって、その後の参議院につながっていくわけです。

Q 井出庸生氏の動向についてはいかがですか？

実は、井出庸生氏にはかなり期待をしていました。彼にはリベラルな井出ブランドがあり、それで東大野球部、NHKとくるとしてよ。長野県民に受けるんですよ。ただ、この前の衆議院選挙ではかつての井出家の組織が動かなかったから、彼は組織を持っていないんです。これは後付けの解釈ですが、彼は希望の党から出たわけですが、千曲会の推薦を受けて、自民党の候補者に圧勝しました。その後希望の党を離れて新政信州だけに残っていた。新政信



戦争法反対の共同街頭行動

英断がなければ、散々な結果になっていたでしょう。一方、長野4区の対応については禍根を残しました。これは大きな反省点で、国民民主党と共産党との間で

【2面に続く】